

第三者研究会での意見の概要及び意見に対する対応状況

<p>1. 第三者研究会の名称、開催状況</p> <p>名称：「環境負荷の少ない都市・国土構造に関する研究」研究会</p> <p>開催状況 平成13年 8月 9日 : 第1回研究会</p> <p>平成13年11月12日 : 第1回交通部門ワーキンググループ</p> <p>平成13年11月21日 : 第1回民生部門ワーキンググループ</p> <p>平成13年12月19日 : 第2回研究会</p> <p>平成14年 2月15日 : 第2回交通部門ワーキンググループ</p> <p>平成14年 2月21日 : 第2回民生部門ワーキンググループ</p> <p>平成14年 3月11日 : 第3回研究会</p>	<p style="text-align: center;">研究会・ワーキンググループメンバー 研究会は下記メンバー全員</p> <p style="text-align: center;">-----民生部門 WG-----</p> <p>花木 啓祐（東京大学大学院工学系研究科教授）</p> <p>秋澤 淳（東京農工大学大学院 生物システム応用科学研究科助教）</p> <p style="text-align: center;">-----交通部門 WG-----</p> <p>兵藤 哲朗（東京商船大学流通情報工学課程助教）</p> <p>森本 章倫（宇都宮大学工学部建設学科助教）</p>
<p>2. 第三者研究会での意見の概要及び対応</p>	
<p>意見の概要</p>	<p>意見に対する対応状況</p>
<p><全国における地域別CO₂排出量の比較分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな要因を解析するのに多変量解析は必要である。その際、説明変数の選び方が重要であって、政策的なことを考えなくてはならない。 ・重回帰分析では、政策変数を意図的に選ばなければならない。多少値が小さくても政策変数を残すほうが望ましい。 ・「住まい方」に政策的誘導策があるのではないかと？ ・評価方法として、1人あたりでみる方法と総量でみる方法とがある。 ・エリアごとの絶対量について議論するのではなく、都市間比較に重点を置いた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多変量解析においては、まず気温等、影響力の大きな変数を抜いた上で、都市のコンパクトさを示す政策変数を優先的に説明変数として選んでいく。 ・説明変数には政策変数を優先して選ぶようにしている。ただし、変数の信頼性を考慮してt値は2以上としている。 ・集合住宅比率や世帯人員等を説明変数として考えている。 ・地方生活圏別の相対的な比較をしているので、1人あたりで評価する。 ・1人当りの数値とした上で、地域間の比較分析を行っている。なお、絶対量については、全国の合計値と既存統計の数値との整合性について確認している。

意見の概要	意見に対する対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ・今回は産業を含めないということには賛成だが、積上げたデータを実際に公表データと付き合わせるときに、産業部門が入っていないことに問題はないのか？ ・自動車の1人あたりCO₂排出量の「ぶれ」が非常に大きい。 ・推計方法を報告書に載せてほしい。 <p>< 仙台都市圏における施策効果分析 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・P&R は短期的な施策であって、一時的に公共交通の需要を担保する効果があるだけである。長期的には、郊外が便利になり、さらに郊外に住むことが可能となっていく。その結果、人口の郊外化がさらに激しくなる可能性がある。政策変数だからといって必ずしも効果がある結論でなくてもよい。 ・副都心型は効率が悪いという結論であるが、仙台市は一極集中による混雑の弊害を解消するために都市機能を分散させようという発想のもとで、業務核都市構想を作成したはずである。 ・価値観や生活水準の変化により、原単位は将来的に変わっていくというシミュレーションなのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国ベースでは産業部門も含めて全部門の推計を行い、部門別に既存統計との整合性を検証する。 ・市町村単位の集計では「ぶれ」が大きいので、地方生活圈単位にまとめて表現する。 ・報告書で推計方法の説明をする。 <p>・P&R が環境負荷を増加させるという結論を導くのではなく、施策の組み合わせという観点からも P&R の評価を行いたい。</p> <p>・今回は評価指標としてCO₂しか使っていないため、副都心型のメリットを評価することができなかった。今後は、社会的・経済的影響を含めて多面的な効果を評価していきたい。</p> <p>・将来の原単位を予測するのは困難なため、変化しないという仮定にしている。</p>